

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：25511

学校名：平岡南小学校

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果		分析	
体力・運動能力 ＜男子＞	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均を上回っている種目 長座体前屈 反復横とび 立ち幅跳び 握力 上体起こし 50m走 ソフトボール投げ ○全国平均と同程度であるがやや下回っている種目 20mシャトルラン 	男女とも体力合計点が全国平均を上回っているところは評価できる。特に「長座体前屈」の記録は全国平均を大きく上回っている。課題としては持久力に関する「20mシャトルラン」の記録が全国平均を下回っていることと捉える。持久力の向上を目指す取組が必要と考える。	
体力・運動能力 ＜女子＞	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均と同程度であるがやや上回っている種目 長座体前屈 反復横とび 50m走 立ち幅とび ○全国平均と同程度 上体起こし ソフトボール投げ ○全国平均を下回っている種目 握力 20mシャトルラン 		
運動・スポーツ への意識、運動 習慣など	<ul style="list-style-type: none"> Q「体育の授業は楽しい」と回答する児童 男子 100% 女子 89.3% Q「朝食は毎日食べる」と回答する児童 男子 81.6% 女子 76.0% Q「スクリーンタイム5時間以上」と回答する児童 男子 20.5% 女子 17.9% 	体育の授業に関する満足度が高いことがうかがえる。授業者の努力の成果が表れている結果である。「スクリーンタイム」に関する質問では、男女とも全国平均を上回っている。スマートフォンの所持率も上がってきていることが予想され、今後の課題となる。	
三つの取組	①体育・保健体育等の 授業の充実	②授業以外で子どもの 運動機会を創出する取組	③子どもが自ら 健康の保持増進を図る取組
具体的な 取組	<ul style="list-style-type: none"> ○「課題探究的な学習」の推進 運動・健康に対する実態把握・分析を行い、児童自らが課題を見出し、目標をもって主体的に取り組むことができる学習を推進する。 ○楽しい体育科授業の工夫 児童の「やってみたい」という思いを大切に、運動する楽しさを実感できる体育の授業を充実させる。 ○ICTを活用した学習活動の充実 一人一台端末等を活用し、成長や課題を自覚できる学習活動を充実させる。 ○小中一貫したつながりの充実 体力テストの記録カードを共有化し、中学校とのつながりを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○三間（仲間、時間、空間）の創出による運動機会の充実 体育館・グラウンド・しらかばホール(多目的室)といった多くの割当場所を設け、休み時間の運動の場の確保を図る。学年・学級での係活動や全員遊び、児童会活動、縦割りグループ「そよ風活動」による遊びを通じた運動機会を常時検討し、持久力を向上を図っていく。 ○運動の機会の充実を図る環境整備の推進 学年ごとに「なわデー」を設定し、日常的に実施する。全校共通して「マット・跳び箱週間」を設定し、一人一人の運動する機会を増やすことができる環境の整備を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科等の内容を関連付けた健康教育の推進 発達段階に応じた「性」に関する指導を充実し、男女の性別に左右されない教育活動を促進する。 「食に関する指導の手引き」を活用し、給食と関連付けながら、食に関する指導の充実を図る。 ○外部講師の活用など家庭・地域との連携 学年の実態に応じて、外部講師を招き、運動への興味関心を高め、健康に生活することの大切さを実感できる学習を推進する。 ○「スクリーンタイム」の意識を高める 校内、家庭でのタブレットの使用が日常的になってきていることを受け、使用時間について見直す機会を設けていく。
家庭・地域との 連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○学校独自の児童アンケートや学校教育(保護者)アンケート等の活用 ○学校評議員会・学校関係者評価等の活用 ○5年生実施の全国体力・運動能力、運動習慣等調査や全学年実施のスポーツテストの調査結果を活用 ○体育の評価規準に基づく学習状況や評価結果等の活用 		